

○3節－2 ノリ養殖業・貝類漁業対策

・ノリ養殖対策

1. 養殖施設の適正配置の指導，育苗期のノリ芽健全度調査の実施，生育状況の情報提供，既存の気象海況・生産状況のデータベース化，養殖管理情報の提供等の技術指導

千葉県水産総合研究センター東京湾漁業研究所では養殖施設の適正配置の指導、育苗期のノリ芽健全度調査、生育状況の情報提供を実施しており、今年度の経過は以下のとおりです。

9月下旬から10月上旬に陸上採苗と採苗網の張り込みが行われ、育苗がスタートしました。10月には降温が停滞したことで、健全度がやや低下した網が見られたものの大きな問題は無く、数ミリサイズまで生長し、10月下旬までにはほぼ予定数の良質な種網が確保できました。

10月下旬から11月上旬に網の展開が始まり、中旬から収穫が行われるようになりました。11月には高い気温が続いたことで水温が19℃前後で推移しました。このため支柱柵漁場では、著しい生長不良やノリ芽の脱落が続きました。ベタ漁場の生育も低調でしたが、行徳側ではなんとか収穫が継続され、不調だった船橋側も12月中旬以降は徐々に好転して収穫が行われました。1月は支柱柵で生育不良がみられましたが、中旬からは伸長状況が徐々に好転し、漁場全体で収穫枚数が増加しました。

今期は、全県的に生産枚数が伸び悩みましたが、例年を大きく上回る価格での取引が続いており、今後の生産が期待されます。

【参考：生産状況】

(平成28年3月19日現在、割合はいずれも平年(22～26年までの5中3)同期比)

	枚数	金額	
市川地区	61%	97%	
船橋地区	43%	54%	
(三番瀬)	51%	72%	
木更津地区	56%	84%	
富津地区	43%	55%	
(全 県)	45%	59%	
(全 国)	93%	101%	*全国は前年比